

生涯学習基盤経営コースについて

河村俊太郎

1 コースの沿革

本コースは、2007 年度から本教育学研究科に誕生しました。それ以前にあった「生涯教育計画コース」に対して、社会教育学分野と図書館情報学分野の研究室がお互いの研究教育領域を意識しつつ新しい分野をつくるため再構成しました。

学校教育の終了後あるいはその外で、生涯にわたって人が営みつづける学習活動とそれを支える組織・制度・環境・技術について、教育学、経済学、社会学、情報学的な視点からの理論的研究、実践的な研究を進めます。公民館、博物館、図書館などの機関における専門職員の方の積極的な参加もまた期待されています。

1.1 コースの主な研究・教育分野



図 コース内における研究・教育構成

以下のような様々なレベルで、対社会的な関係を重視した実践的研究から理論的・基礎的な研究までを行っています。

- 主に社会教育学研究室が中心となっていく、公民館・生涯学習センター・博物館等の活動

- 主に図書館情報学研究室が中心となっていく、図書館等の活動
- NPO や NGO、地域活動などより広い意味での教育・学習の実践やサービス活動
- 図書館だけでなく Web やメディアを含む環境としての情報メディア基盤とその編成、それを支える情報検索や言語情報処理などの技術

1.2 コースの特色

- 対社会的関係と実践
教育現場での見学、実習、調査、NGO や NPO 活動への参加、情報サービスの構築や運用等の実践活動を支えるカリキュラム・指導
- 基盤となる考え方・方法論・論理性
研究テーマ指向のゼミや授業、調査方法論、量的・質的研究方法論、データ分析論、論文執筆法
- 多様性、学際性、国際性
世界中の研究者や教育実践者、他研究室・他大学・他学部・NPO や NGO など大学内外の組織・行政との間に、理論・実践の両レベルで多様なネットワークを構築

2 コースの中の研究室とスタッフ

図書館情報学研究室

影浦峽教授、河村俊太郎准教授

社会教育学・生涯学習論研究室

牧野篤教授、李正連准教授、新藤浩伸准教授

参考

東京大学大学院教育学研究科教育学部案内 (p. 22~29)

https://www.p.u-tokyo.ac.jp/wp-content/themes/p.u-tokyo2014/pdf/trim_compressed_20200427.pdf

東京大学・大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース <https://llls.p.u-tokyo.ac.jp/>

コースについての質問、相談窓口

mail: n-kawa@ka2.so-net.ne.jp (河村俊太郎宛)

図書館情報学研究室について

河村俊太郎

1 研究室の沿革

1.1 図書館情報学とは

知識や情報（これら自体が何なのかも重要な問いですが）をいかに集め、整理保存し、利用可能にするかという問いを扱う学問です。特に、図書館や人といった社会的な視点が重視されています。そのテーマの範囲は以下のように非常に広大です。

- 「知的」学習にかかわる組織、特に図書館とその構成要素
図書、図書館職員/専門職、知識運営、図書館という場（所）
- 「知的」学習を促進する観点からの「技術」
Web（とその技術）、翻訳、専門語彙
- 以上のものを扱う前提となるもの
情報の生産、知識の編成、表象の形態

1.2 研究室について

主に二つの系統を教育、研究しています。社会的な組織、特に図書館という組織のお話をあつかう「図書館系」と、知識のユニットとその編成を重視する「情報系」です。

2 研究室の主なスタッフ

- 影浦峯教授
主に図書館情報学の「情報系」をになっています。
人はどのような条件のもとで「考える」と呼ぶに足る考えることを行えているのかを扱っています。その課題設定のもとで、言語やメディアの構造についての数学的モデルという基礎的な分野から、翻訳支援システムなどの応用的な分野まで幅広く研究しています。
- 河村俊太郎准教授
主に図書館情報学の「図書館系」をになっています。
東京帝国大学とその図書館を中心とする、日本における学術的知の歴史を主に研究しています。

参考

東京大学図書館情報学研究室 <https://lis.p.u-tokyo.ac.jp/>

社会教育学・
生涯学習論
研究室

本研究室の教員は、

牧野篤、李正連、新藤浩伸の3名です。

教員紹介は次頁以降をご覧ください。

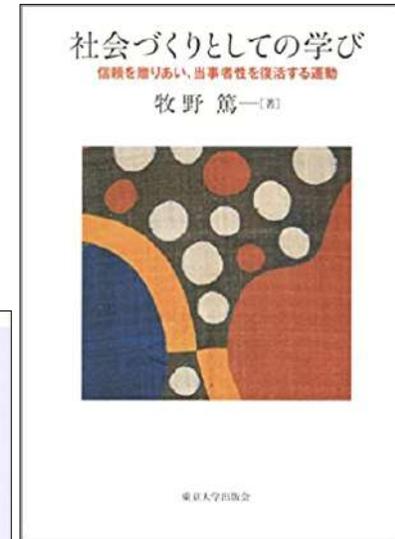
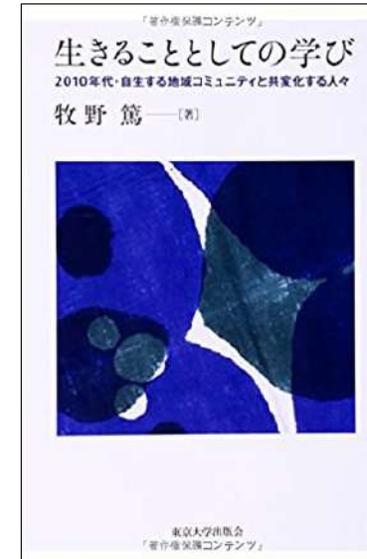
研究室についてのより詳しい情報は、研究室
ホームページをご参照ください。

<https://syakyou.p.u-tokyo.ac.jp>



牧野 篤（教授、生涯学習論）

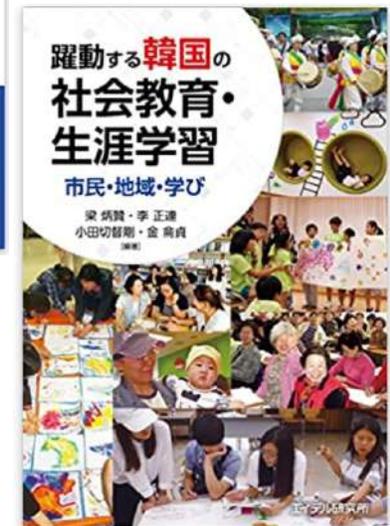
- 研究関心：専門は社会教育学・生涯学習論および近代中国教育思想・東アジア地域の少子高齢化と地域づくりなど。人が生活の営みを続け、成長していくことに現れるさまざまな事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えること、とくにコミュニティの自律と住民の学習とのかかわりに関心がある。最近では、自治体や企業などとともに人生100年社会デザインについての共同研究を行っている。
- 主な著書：『生きることとしての学び—自生するコミュニティと共変化する人々—』（東京大学出版会、2014年・単著）、『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動—』（東京大学出版会、2018年・単著）、『公民館はどう語られてきたのか—ちいさな社会をたくさんつくる・1—』（東京大学出版会、2018年・単著）など多数





李 正連（准教授、社会教育学）

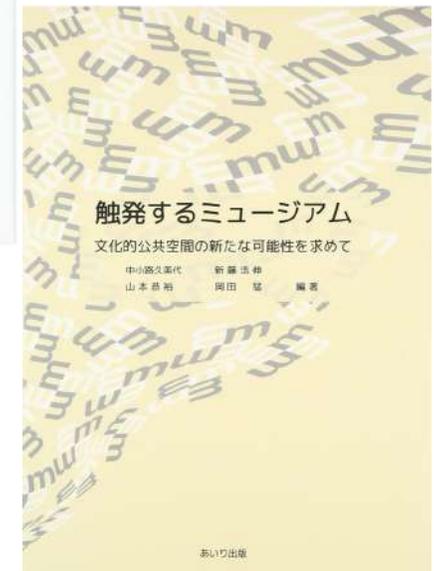
- 研究関心：専門は韓国の近代社会教育史研究、その中でも韓国における近代「社会教育」概念の起源とその展開について研究しています。最近では植民地期朝鮮における代表的な社会教育活動の「夜学」活動と、当時の女教師たちによる社会教育活動について研究しています。一方、今日の住民たちによる学習や地域づくり運動、教育福祉問題、そして日韓の社会教育・生涯学習政策などにも視野を広げて検討しています。
- 主な著書：『韓国社会教育の起源と展開－大韓帝国末期から植民地時代までを中心に－』（単著）、『躍動する韓国の社会教育・生涯学習－市民・地域・学び－』（共編著）、『社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ－日本・アジア・欧米の社会教育職員と地域リーダー』（分担執筆）など





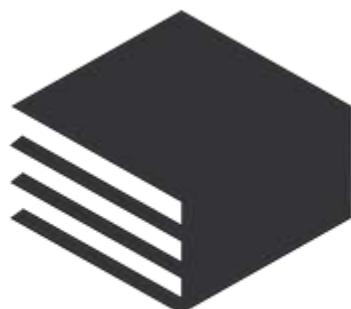
新藤 浩伸（准教授、生涯学習論）

- 研究関心：表現文化活動を行う人と場所（公共ホール、博物館等、人が集まる様々な空間）の支援を通じた生活や地域の活性化、市民活動のアーカイブ化とその活用、メディア・文化産業と生活の関係など。
- 主な著作：『公会堂と民衆の近代』（単著）、『成人教育と文化の発展』（監訳）、『地域に根ざす民衆文化の創造』『触発するミュージアム』（編著）、『文化政策の現在（全3巻）』、『表現・文化活動の社会教育学』（分担執筆）



図書館情報学研究室

研究室紹介



UTLiS

2020年5月

内容

メンバー	3
研究テーマ	4
研究生活	8
進路	12

1 メンバー

教員

- ・ 影浦峽教授
- ・ 海野敏客員教授
- ・ 河村俊太郎准教授
(客員研究員)
- ・ 賀沢秀人先生

学生

博士課程 12 名
修士課程 1 名
研究生 2 名

2 研究テーマ(教員)

影浦峡教授

“言語と記号の相貌：強制的拘束性を有するものとしての記号の存在と配置”

(情報学環 HP より):

http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/faculty/kageura_kyo)

河村俊太郎准教授

“東京帝国大学図書館の歴史を通じて、日本の学問の組織化について研究しています。”

(researchmap より):

<https://researchmap.jp/kawamura>)

2 研究テーマ(学生)

図書館系

- ・ 1950年代以降の学校司書の実践の歴史など
- ・ 利用記録を用いた大学生の文献入手環境の研究
- ・ サブジェクト・ライブラリアンシップと図書館員の専門性
- ・ 空間構造から見る図書館文化に関する利用者の認識 —サンリアン海辺図書館を例として—

言語(処理)系

- ・ 言語運用の適切性を判定する手法の開発
- ・ Exploiting Terminological Structure for Term Extraction, Translation and Generation/Validation

翻訳系

- ・ 翻訳者育成のためのカリキュラム構築
- ・ 機械翻訳の多様化の欠如と低い文脈感度の原因と改善の方法について

フォント・デザイン系

- ・ 発達性ディスレクシアに特化した読みやすい和文書体の研究
- ・ 慧琳撰一切経音義・希麟撰続一切経音義における異体字と字形
- ・ 日本語ウェブ文書に対する日本語非母語者の読み理解のためのドキュメント・デザインに関する研究

3 研究生生活

- ・ 修士論文, 博士論文の作成に向け, 授業のみならず, 多様な研究基盤が提供される。
- ・ 院生用の研究室で研究を進められる。
コアタイムなし(常に研究室にいらなくてOK)
- ・ 自律性は必要
先行研究を読み, 学会発表, 論文執筆, 学会誌投稿等を各自進める。
指導教員との面談は各自で設定。
下記の授業等で研究の手続きを学ぶ。

授業

- ・ 演習, 輪読, 講義等の形式
- ・ 課程修了に必要な単位数は, 学部に較べて少ないが(修士: 30 単位, 博士: 20 単位), 予習したことを前提に議論するという授業展開が多いので, 毎回準備が必要。
- ・ 入学時, 進学時の年度は, 週 3~6 コマ程度の受講見込み(授業ごとに, 頻度は毎週, 隔週等と異なる)。
- ・ **新型コロナウイルスの影響**
授業は4月の開始以降, 基本的にすべてオンライン形式で遅滞なく実施中。

授業の紹介

(『生涯学習基盤経営研究』第 44 号, シラバスより抜粋)

図書館情報学総合研究

主に図書館情報学研究室所属大学院生が研究発表をする場である。

図書館情報学研究方法論

図書館情報学研究に関連する具体的な方法論を身につける。

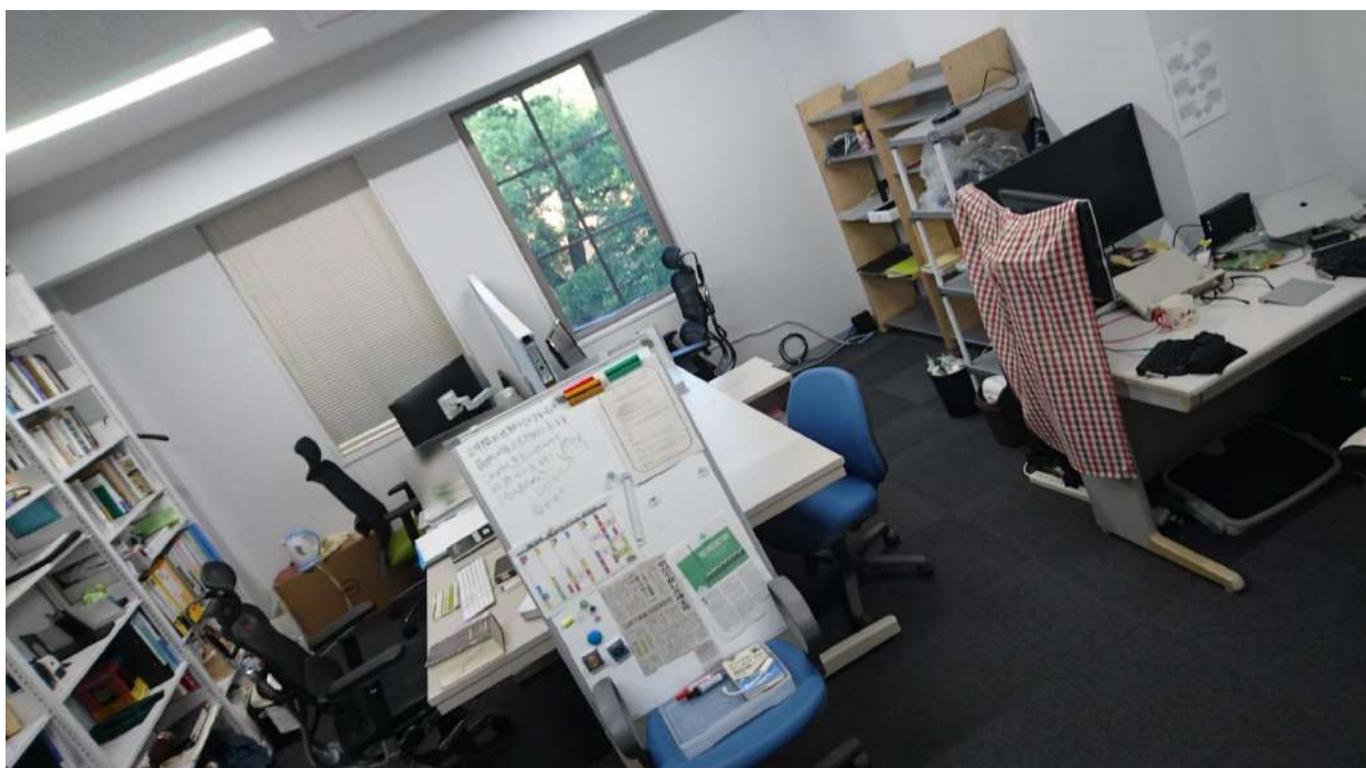
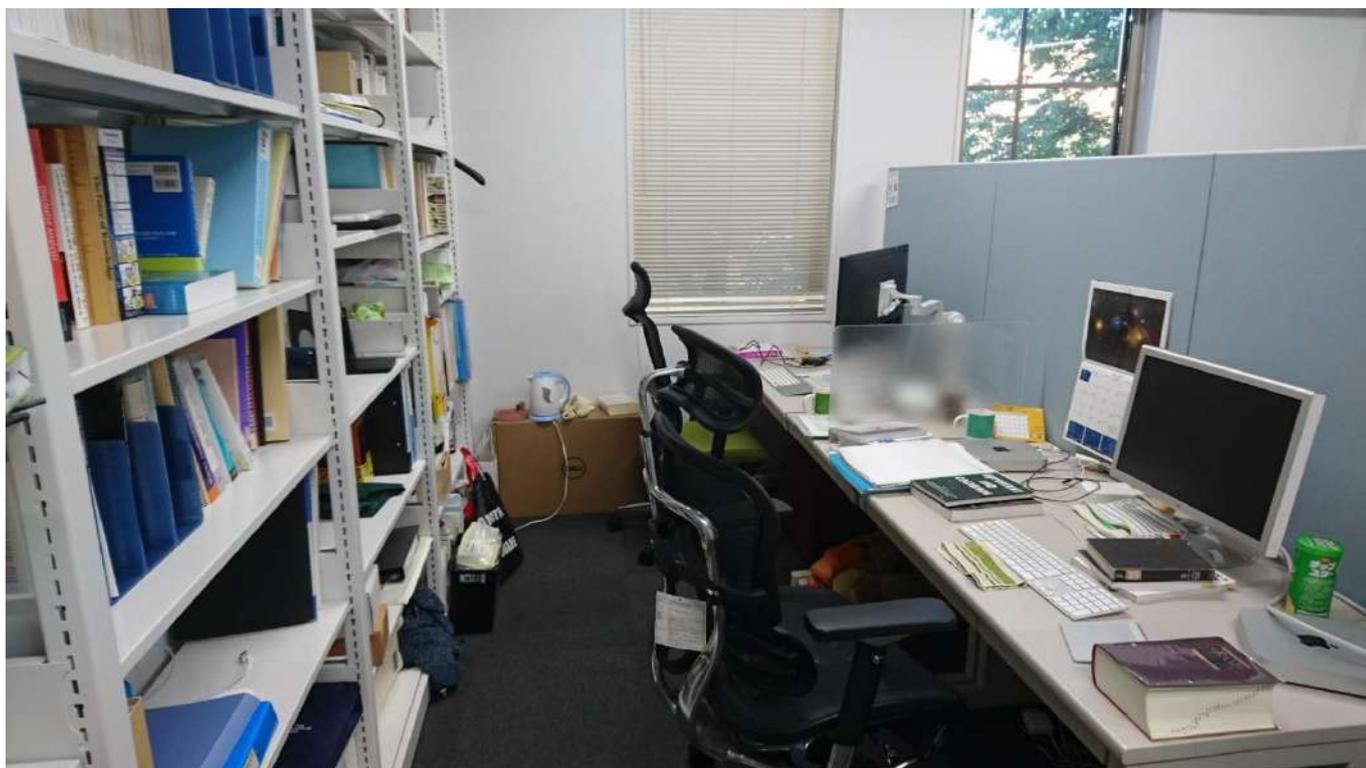
図書館情報学理論研究

図書館, 図書館情報学に関わる英語文献を輪読する。輪読を通じて, 文献の読み方, そして基本的な概念や歴史などについても学ぶ。

図書館と情報資料

図書館と情報資料に関連するデータを収集し, それらを数量的に分析することによって知識の展開・記録・伝達・流通についての新たな知識を得ることを目的とする。

研究室



4 進路

修士課程修了者

- ・ 博士課程進学
- ・ 民間企業 (IT 系など)
- ・ 高校教員
- ・ 図書館司書
- ・ 大学職員

博士課程修了者

- ・ 大学教員
- ・ 研究職 (国立情報学研究所等)

おわりに

以下のことに関心のある方をお待ちしております。

- ・ 図書館の活動
- ・ 人々の「知」の創造
- ・ 幅広い学習や教育の実践
- ・ 情報メディアの基盤やその構成
- ・ 情報検索や言語情報処理等の技術

Adult & Community Education

社会教育学・生涯学習論 研究室

Open Laboratory 2020

5/20/2020 1

1

基本情報 About us



5/20/2020 2

2

社教研究室について

社会教育学ならびに生涯学習論の知見をベースとしつつ、広域化・複雑化しつつある社会課題へのアプローチを続けています。

院生の研究関心は自治・福祉・環境・文化など多くの領域にまたがり、研究方法も理論研究、実証研究、歴史研究などさまざまです。

5/20/2020 3

3

教員紹介



李 正連 (准教授)
LEE Jeongyun



牧野 篤 (教授)
MAKINO Atsushi



新藤 浩伸 (准教授)
SHINDO Hironobu

5/20/2020 4

4

院生紹介

- 2020年4月現在、博士課程18名、修士課程1名、研究生2名の計21名が在籍しております。
- 在籍中の学生の取り組んでいる研究テーマ：
地域と学校、若者のキャリア形成、精神障害家族の学習活動、共同育児、公共ホール、子どもの貧困、博物館教育、超高齢社会と学習、教育福祉等



5/20/2020 5

5

年間行事

授業	行事	調査関連
4月 S1期	新入生歓迎会	各プロジェクトごとに進める
5月	オープンプラゴ	研究科説明会と合わせて実施する研究室説明会。
6月 S2期		
7月	修論中間検討会	コース内での研究交流を深める企画。各研究室から院生・卒業生が研究報告を行う（非公開行事）
8月 集中講義		
9月 A1期	ワンデイセミナー	
10月		進学/修了時期や授業期間終了時、年末年始等にコンパを企画。院生独自の自主勉強会やフィールドワークも実施しています！
11月 A2期		
12月	大掃除・忘年会	
1月 集中講義		修士論文提出
2月	修論報告会	
3月/20/2020	送別会	

5/20/2020 6

6

研究環境

本研究室は、教育学部棟に所在します。主に院生が使用している部屋は以下の3室です。

院生控室：日常的に使用する部屋
冷蔵庫、オープンレンジ、コーヒーメーカーなど日常的に利用する部屋。書籍等を置くことのできる個人用スペースあり。共有PC3台（ノート1台、デスクトップ2台）プリンター1台、複合機1台。

院生研究室：勉強部屋
研究用デスク5台、デスクトップ型PCが1台、ノートPC2台、プリンター3台、複合機1台

セミナー室：会議、勉強会
貸し出し用ノートパソコン3台、プロジェクター、メールボックスと個人用の鍵付きロッカー



7

7

研究内容

Research



5/20/2020

8

8

履修について

課程の修了に必要な単位数は、修士課程で30単位、博士課程で20単位です。

本コースの属する教育学研究科総合教育学専攻で開講されているすべての授業科目は、「**基本研究**」「**特殊研究**」「**論文指導**」に大別されます。それぞれの科目群で必修単位数が定められているので、詳しくは「大学院便覧」などを確認してください。

5/20/2020

9

9

開講科目

必修科目：生涯学習論基本研究・生涯学習論特殊研究です。S1 A1 A2 学期各先生を担当に開講され、社会教育学・生涯学習論の基礎となる文献を購読します。基本的にゼミ形式で進めます。ゲストの先生に来て頂くこともあります。

2020年度授業科目

- S2集中：生涯学習論基本研究Ⅱ（牧野 篤）
- A2:生涯学習論特殊研究Ⅰ（新藤 浩伸）
- A1:生涯学習論特殊研究Ⅱ（李 正連）
- A2集中：社会教育学・生涯学習論研究（久井 英輔）
- S2集中：プログラム評価論（安田 節之）
- 通年：生涯学習論論文指導（牧野 篤、李 正連、新藤 浩伸）

5/20/2020

10

10

基本研究・特殊研究ゼミ

- 必修科目
- 各先生が担当
- 基礎となる文献を購読
- ゼミ・ディスカッション

論文指導ゼミ

- 月に一度
- 各自の取り組んでいる研究の報告・議論・検討を行う
- ゼミ形式
- 個人面談



5/20/2020

11

11

2019年度各講義等で購読した文献（一部）

1. 牧野篤『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる①』2018、東京大学出版
2. 「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」2015、中央教育審議会など2015年答申を複数輪読
3. 韓国住民運動教育院著、平野隆之ら編訳『地域アクションのちから—コミュニティワークリフレクションブック』2018、全国コミュニティライフサポートセンター
4. 紙屋高雪『“町内会”は義務ですか？—コミュニティと自由の実践』2014、小学館新書 など

5/20/2020

12

12

その他開講科目

2019年度

- ・ 安藤聡彦先生（埼玉大学）生涯学習論特殊研究Ⅱ
- ・ 佐藤智子先生（東北大学）生涯学習研究における理論と方法

2018年度

- ・ 朝岡幸彦先生（農工大）「持続可能な開発のための教育」
- ・ 安田節之先生（法政大学）「プログラム評価論」

2017年度

- ・ 安田節之先生（法政大学）「プログラム評価論」
- ・ 上原直人先生（名古屋工業大学）「公民教育としての社会教育の形成と展開」

各自の関心に応じて他コース、他学部の授業を受講

5/20/2020 13

13

フィールド・実践

北海道富良野市

千葉県柏市高柳地区：多世代交流型コミュニティ

岐阜県高山市：「東大ものラボJAPAN」

岐阜県岐阜市：「ぎふスーパーシニア」

東京都文京区世田谷区

長野県飯田市：公民館調査

長野県松本市

愛知県豊田市

5/20/2020 14

14

院生プロジェクト

東京都世田谷区：岡さんのいえTOMO (地域共生のいえ)

世田谷区上北沢にある昭和の一軒家 (地域共生のいえ) 多世代で交流する「まちのお茶の間」づくり

クリスマス会、ソムリエ監修・ワインの会、映像交流会、留学生お国料理の集い、フォークソング交流会、アカベラの集いなどさまざまな活動をしている。

5/20/2020 15

15

院生プロジェクト

千葉県柏市高柳/豊四季台：キッズセミナー (多世代交流型コミュニティ)

高齢者と小学生の多世代交流の場の創出を目的としてやっているものづくり活動

※今年度の開催予定は未定です。

5/20/2020 16

16

院生プロジェクト

高山市・岐阜市：東大ものラボJAPAN (子ども・市民のものづくり創発プログラムの開発)

小学生を対処に、数日間をかけて仲間と協力しながら「ビタゴラ装置」などを作り上げるものづくりワークショップ

5/20/2020 17

17

研究成果

Achievements

5/20/2020 18

18

近年の修士論文題目

- 高齢者の社会参加とは何か—当事者の語りを通して— (2020)
- 戦後生活記録文集の再検討—1960年代の兵庫における女性の文集『おかあさん』を中心に— (2020)
- 高齢期の学びと「孤独感」の変容—なかの生涯学習大学卒業生の語りから— (2020)
- 社会教育法における「文化的素養」の意味—立法当時の議論と今日的解釈— (2019)
- 環境保全型地域形成と住民の学習運動—宮城県北地域を例として— (2019)
- 喪失を伴う老いの生き方に関する探査的研究—神奈川県介護付有料老人ホーム入居者を例として— (2019)
- 〈老い〉をめぐる学びに関する研究—飯田市華麗なる音楽祭を事例に— (2019)

5/20/2020 19

19

近年の博士論文題目

- 課程博士
 - インプロ実践がもたらす高齢者の〈老い〉のイメージの変容—高齢者インプロ集団「くるる即興劇団」を事例として— (2018年11月)
 - 中国高等教育における教養教育に関する実証的研究—グローバル化がもたらす教養教育の内的矛盾：北京大学「元培教育モデル」の検討を通して— (2018年6月)
 - 近代日本における中上流階級女子のたしなみ像—19世紀末から20世紀初頭東京の音楽文化に着目して— (2016年12月)
 - ……
- 論文博士
 - 公民教育としての社会教育の形成と展開—1920年代から戦後改革期における思想分析を中心に— (2017年2月)
 - 日本のPTA前史と発足過程の研究—親の教育参加とPTAの原理— (2011年5月)
 - ……

5/20/2020 20

20

学会発表と国際交流



教育学部棟の1Fに国際交流室があります。各国からの留学生や在学生が日常的に出入りして交流しています。

5/20/2020 21

21

学習基盤社会研究・調査モノグラフ



「学習基盤社会研究・調査モノグラフ」は、当研究室が不定期に発行している研究報告のシリーズです。研究室で実施してきた共同研究やプロジェクトで得られた成果を単一のテーマにまとめて、研究交流を促進することを目的としています。

5/20/2020 22

22

院生生活

Student's Life



5/20/2020 23

23

修士課程Aさんの1日 (例)

S1 Weekly Schedule

TIME	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
1 08:30-10:15							
2 10:25-12:30	生涯学習論論文指導	修士定例ゼミ (課題と発表1)			Global group meeting		
3 13:50-14:45	中国語代読教員 (国文1 11B)				生涯学習研究センター 行本理論と方法 実学演習		
4 14:45-16:40	中国語代読教員 専門講座27B					高齢社会総合研究 実学演習	
5 16:50-18:35	生涯学習論基本 研究			高齢社会総合研究 実学演習		高齢社会総合研究 実学演習	
6 18:45-20:30	生涯学習論基本 研究			オープンラボ			
7 Home							

集中講義：
Educational Change in a Global Era: A Theoretical Roadmap to Current Debates
Communication Strategies for Education Researchers
現象学的な質的研究 (村上靖彦)

他学部やコースの授業を受けたり、他ゼミに参加したり、関心のある授業を各自履修しています。

5/20/2020 24

24



25



26